

(7) 自動車アセスメント情報提供業務

(中期目標)

- ① 車両の安全性能に関する公正でわかりやすい情報提供をより効果的に行うことにより、自動車メーカーの安全な車の開発意識を高める。

(中期計画)

- ① 効率的かつ公正な自動車アセスメントを実施することにより、自動車メーカーの安全な車の開発意識を高めるとともに、ユーザーが安全な車を選択しやすい情報を提供します。

これにより安全性能に係る指標（乗員保護性能は総合評価の☆の数※及び歩行者頭部保護性能は評価レベル）について、中期目標期間の年度毎に、過去に自動車アセスメントを実施した車種の後継車種の評価指標の平均値が、旧車種の評価指標の平均値以上となるようにします。

※総合評価の得点率を☆の数6段階で表示

(年度計画)

- ① 効率的かつ公正な自動車アセスメントを実施することにより、自動車メーカーの安全な車の開発意識を高めるとともに、ユーザーが安全な車を選択しやすい情報を提供します。

これにより安全性能に係る指標（乗員保護性能は総合評価の☆の数（注7）及び歩行者頭部保護性能は評価レベル）について、過去に自動車アセスメントを実施した車種の後継車種の評価指標の平均値が、旧車種の評価指標の平均値以上となるようにします。

（注7）総合評価の得点率を☆の数6段階で表示

◎ 年度計画における目標値設定の考え方

安全性能に係る指標（乗員保護性能は総合評価の☆の数及び歩行者頭部保護性能は評価レベル）について、過去に自動車アセスメントを実施した車種の後継車種の評価指標の平均値が、旧車種の評価指標の平均値以上となるよう、広報等によりユーザーの安全性への関心を高めることで、安全性の高い自動車の普及を図る。

◎ 当該年度における取組み及び中期目標達成に向けた次年度以降の見通し

1) 平成20年度における取組み

- 平成20年度の自動車アセスメント試験では、後継車種（6車種）について評価指数の平均値が旧車種の評価指標の平均値以上となった。



2) 中期目標達成に向けた次年度以降の見通し

引き続き公正でわかりやすい情報提供をより効果的に行い、評価指標の向上を図る。

◎ その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

(中期目標)

- ① 車両の安全性能に関する公正でわかりやすい情報提供をより効果的に行うことにより、自動車メーカーの安全な車の開発意識を高める。

(中期計画)

- ② パンフレット配布、ホームページの構成改善、試験の公開、イベントの開催等により、アクセスしやすい、わかりやすい情報提供をユーザーに行います。

(年度計画)

- ② わかりやすい情報の提供
 - ア よりわかりやすいパンフレットを配布します。
 - イ よりわかりやすくホームページを改善します。
 - ウ 自動車アセスメント試験結果発表会の開催及び自動車アセスメントグランプリの発表をします。
 - エ メディアに対して自動車アセスメントの公開を行う等ユーザーに対しわかりやすい情報提供を行います。

◎ 年度計画における目標値設定の考え方

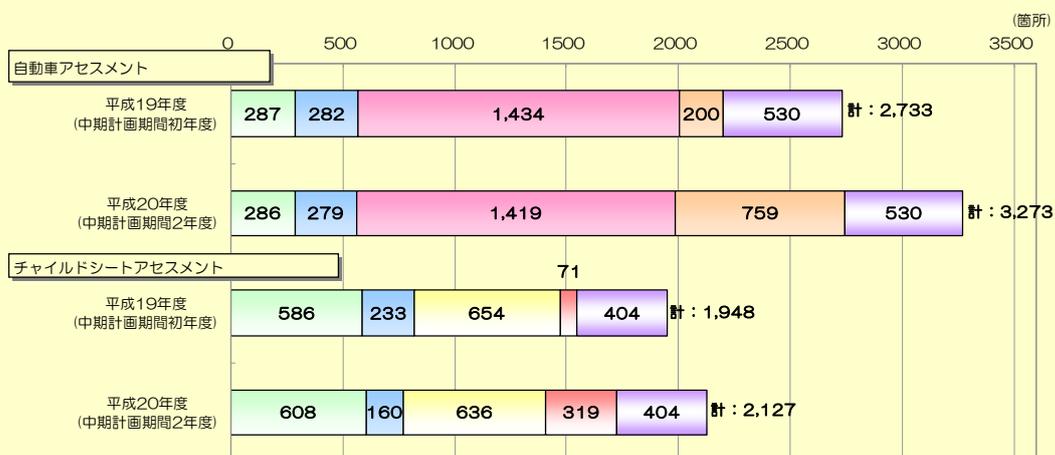
- パンフレットの配布箇所については、前年度（19年度）を上回ることとした。
- 利用者に対する情報提供については、パンフレット及びホームページをわかりやすいものに改善するほか、携帯サイトで提供する情報を拡充し、一般ユーザーのアクセス向上を図った。

◎ 当該年度における取組み及び中期目標達成に向けた次年度以降の見通し

1) 平成20年度における取組み

- ア. よりわかりやすいパンフレットの配布
 - パンフレットの配布については、ユーザーが入手しやすい所に重点を置いて拡大を図った。特に自動車アセスメントについては、平成19年度アセスメントグランプリ受賞車を開発したメーカーを通じて受賞メーカーの販売店に、チャイルドシートアセスメントについては、評価度の高い開発メーカーを通じて、このメーカーのチャイルドシートの販売店に、それぞれパンフレットの設置を依頼し、配付箇所の拡大を図った。

パンフレット配布箇所実績



□市町村役場 □道の駅等 □教習所 □自動車販売店 □産婦人科医院等 □用品販売店 □運輸局等関係団体

○ よりわかりやすいパンフレットをめざし、以下の改善を実施した。

【自動車アセスメント】

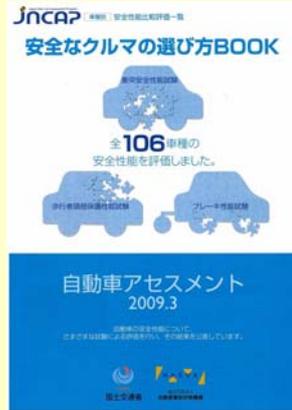
- ・表紙についてデザインを刷新し、一般ユーザーの目に止まりやすいよう改善した。
- ・20年度に実施した車種を赤枠配色し、わかりやすく工夫した。
- ・側面衝突試験において、サイドカーテンエアバッグの評価を行った場合のマークを掲出するとともに試験法に定める基準に適合する時は、安全総合評価の数値の右肩に「+」の表示を追加した。
- ・普及が望まれる横滑り防止装置等の主要な安全装置について、過去に実施した車種を含め全ての車種の装備状況をわかりやすく表示した。
- ・自動車アセスメントの認知度向上のためロゴマークを作成し、パンフレットにも掲載した。

【チャイルドシートアセスメント】

- ・表紙のデザインを刷新し、女性が興味を示すよう改善を行った。
- ・目次にメーカーのロゴマークを配し、女性がわかりやすいよう目次を改善した。
- ・使用性評価について、わかりやすいように改善した。

自動車アセスメントパンフレット紙面の改善例

【表紙の刷新】



【主要な安全装置の装備状況をわかりやすく掲載】

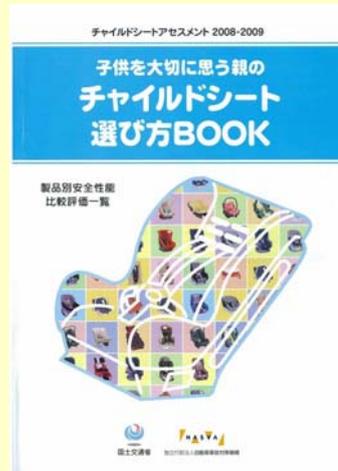
サイドカーテンエアバッグ評価車のマーク



カーテンエアバッグの評価結果

20年度に実施した車種を赤枠で示した。

チャイルドシートアセスメントパンフレット表紙の改善



イ. ホームページの改善

○ よりわかりやすいホームページをめざし、以下の改善を実施した。

【自動車アセスメント関係】

●新しい項目の作成

- ・普及が望まれる横滑り防止装置等の主要な安全装置について、過去に実施した車種を含め、全ての車種の装備状況をわかりやすく表示した。
- ・全ての車種の衝突安全性能詳細ページに、サイドカーテンエアバッグの装備状況を表示した。
- ・自動車アセスメントグランプリ08/09受賞車を紹介した。

●利便性の改善

- ・自動車アセスメントパンフレットをホームページからダウンロードできるよう改善した。

●閲覧操作性の改善

- ・「自動車アセスメントとは」等ページの煩雑な操作を簡単にできるよう改善した。

【チャイルドシートアセスメント関係】

●わかりやすさの改善

- ・「試験機種一覧」ページのレイアウトを変更した。
- ・「チャイルドシートの使い方」ページの画像の差し換え、レイアウトを変更した。

●利便性の改善

- ・チャイルドシートアセスメントパンフレットをホームページからダウンロードできるよう改善した。

【自動車アセスメント】



○ 携帯サイトの改善

アクセスしたユーザーに最新の情報が提供できるようレイアウトを変更した。

また、ユーザーからのアクセスの増加を目的に、自動車アセスメント評価車種に装備されている「普及が望まれる横滑り防止装置等の主要な安全装置の装備状況」について、情報を追加した。



ウ. 自動車アセスメント結果発表会の開催及び自動車アセスメントグランプリ等の表彰

自動車アセスメントについて一般ユーザーに対し周知を図るため、平成21年4月23日(木)に東京大手町サンケイプラザにおいて、メディアを対象とした自動車アセスメント結果発表会を行った。

また、安全性の優れた自動車を開発したメーカーの榮譽を称え、より一層安全な自動車の開発を促すとともに、自動車アセスメントの知名度向上を図り、自動車の安全性について

ユーザーの関心を高め、安全な自動車の普及を促進することを目的として創設した自動車アセスメントグランプリについて、20年度に試験を行った自動車(19車種)の中から「ヴェルファイア/アルファード」を選定し、この結果発表会において表彰を行った。

あわせて、今回からグランプリ候補に選ばれたもののグランプリの選から外れた優秀車についても、「アセスメント優秀車」として表彰した。これらの表彰を行うことで受賞にかかるメーカーの広報機会を拡大と自動車アセスメント事業のさらなる知名度向上を図った。

なお、併設のメトロスクエアでグランプリ受賞車等の一般公開を行った。



【概要】

1) 自動車アセスメント結果発表会

- ・平成20年度自動車アセスメント試験結果の発表
- ・新設した自動車アセスメント優秀車の表彰
- ・自動車アセスメントグランプリの表彰
- ・メーカーの技術担当者による安全技術の紹介
- ・サイドカーテンエアバッグの効果予測、主要な予防安全装置の装備状況について紹介

2) 試験車両の一般公開

- ・評価結果優良車、グランプリ受賞車等をイベント広場のメトロスクエアに展示
- ・チャイルドシートアセスメントの成績優良チャイルドシート等の展示
- ・自動車アセスメント、チャイルドシートアセスメントのパンフレットを配布
- ・平成21年度より実施する評価試験等自動車アセスメントに関するパネルを展示

3) その他

- ・結果発表会に報道関係者等130人を超える参加があった。
- ・試験車両の一般公開で自動車アセスメントのパンフレットを約1000部配布した。

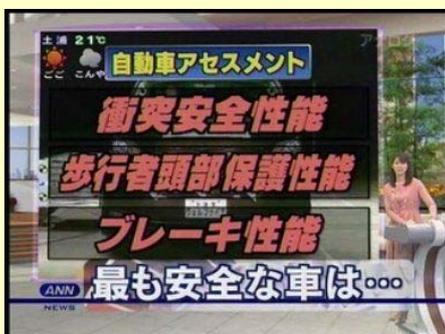
【試験結果の発表会】



【試験車両の一般公開（グランプリ受賞車の前で）】



3) 報道の実績



平成21年4月23日 11:25～
テレビ朝日「ワイドスクランブル」
-最も安全な車は・・・-
(放映時間：1分04秒)

・テレビ(3社3番組)

テレビ朝日(4月23日) 11:25～ ワイドスクランブル (放映時間1分04秒)
テレビ東京(4月23日) 15:30～ NEWS FINE (放映時間 45秒)
MXテレビ(4月23日) 15:00～ TOKYOMXニュース (放映時間 1分23秒)

・新聞(9社)

読売新聞(4月24日)、朝日新聞(4月24日)、毎日新聞(4月23日)、産経新聞(4月24日)、東京新聞(4月24日)、フジサンケイビジネスアイ(4月24日)、日刊自動車新聞(4月24日)、交通毎日新聞(4月24日)、自動車タイムス(5月5日)

・Web(109サイト)

(4月23日)

日経ブロードバンドニュース @niftyニュース、 gooニュース、 infoseekニュース、 Yahooニュース、 carview、 Response 等

・カー雑誌(13誌)

JAFMATE7月号、FENEK6月号、月刊自家用車7月号、ホリデーオート6月号、ベストカー6月号、ドライバー6月号、ActiveVehicle7月号、CARトップ7月号、ルポラン7月号、自動車工学7月号、MoterMagazine7月号 等

工. 公開試験の実施

平成20年2月3日（火）に衝突安全性能試験の公開試験を実施し、併せて後席乗員保護性能評価の導入に向けての調査試験（オフセット前面衝突試験）の公開も行った。

後席乗員保護性能試験導入のための調査試験（オフセット前面衝突試験）は、後席に女性用ダミーを搭載し、アセスメント評価試験の試験条件によりオフセット前面衝突試験を実施したもの。



○ 公開試験に係る報道の実績

・テレビ

- | | | | |
|--------------|--------|-------------|--------------|
| TBSテレビ（2月3日） | 11:00～ | ニュース23 | （放映時間 35秒） |
| TBSテレビ（2月3日） | 17:00～ | イブニングファイブ | （放映時間 5分28秒） |
| テレビ朝日（2月3日） | 5:00～ | 野次馬プラス | （放映時間 1分01秒） |
| BS朝日（2月4日） | 15:55～ | News Access | （放映時間 1分00秒） |

TBSテレビ ニュース23

テレビ朝日 野次馬プラス



- ・新聞 日刊自動車新聞（平成21年2月16日）
交通毎日新聞（平成21年2月6日）
- ・雑誌 Automotive Technology 5月号、CARトップ4月号、mobi21 3月号
アクティブビークル4月号、カーグラフィック4月号、ボデーショップレポ
ート4月号、ホリデーオート4月号、マガジンX4月号、ル・ボラン4月号
軽自動車のすべて特別号
- ・web 日経ブロードバンドニュース、carview、産経webニュース
テレビ朝日web ニュース、共同通信webニュース、nikkei-BPnet

2) 中期目標達成に向けた次年度以降の見通し

引き続き、公正でわかりやすい情報提供に努め、ユーザーがより容易に情報を入手できる配布先の拡充等、効果的な広報について検討することとしている。

◎ その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

○ ロゴマークの作成とその活用

ロゴマークの作成し、パンフレット・ホームページへの掲載の他、アセスメント結果発表会等の機会をとらえ、マスコミ等に対してロゴマーク活用を要請し自動車アセスメント事業の認知度向上を図った。

【ロゴマーク】



○ 活用例

【グランプリ広報資料：メーカー制作】
販売促進材料として全国販売店へ展開



【広報資料：メーカー制作】
広報資料(プレス発表)として活用



【web ニュース】



(中期目標)

- ① 車両の安全性能に関する公正でわかりやすい情報提供をより効果的に行うことにより、自動車メーカーの安全な車の開発意識を高める。

(中期計画)

- ③ 以上の施策を行うことにより、ユーザーに対する5段階評価の調査における利用度・満足度についての評価度について、中期目標期間の年度毎に4.0以上とします。

(年度計画)

- ③ 以上の施策を行うことにより、ユーザーに対する5段階評価の調査における利用度・満足度に関する評価度（20年度）について、4.0以上とします。

◎ 年度計画における目標設定の考え方

ユーザーに対する満足度調査を行い、5段階評価による評価度について4.0を上回ることを目標とした。

◎ 実績値

1) 平成20年度における取組み

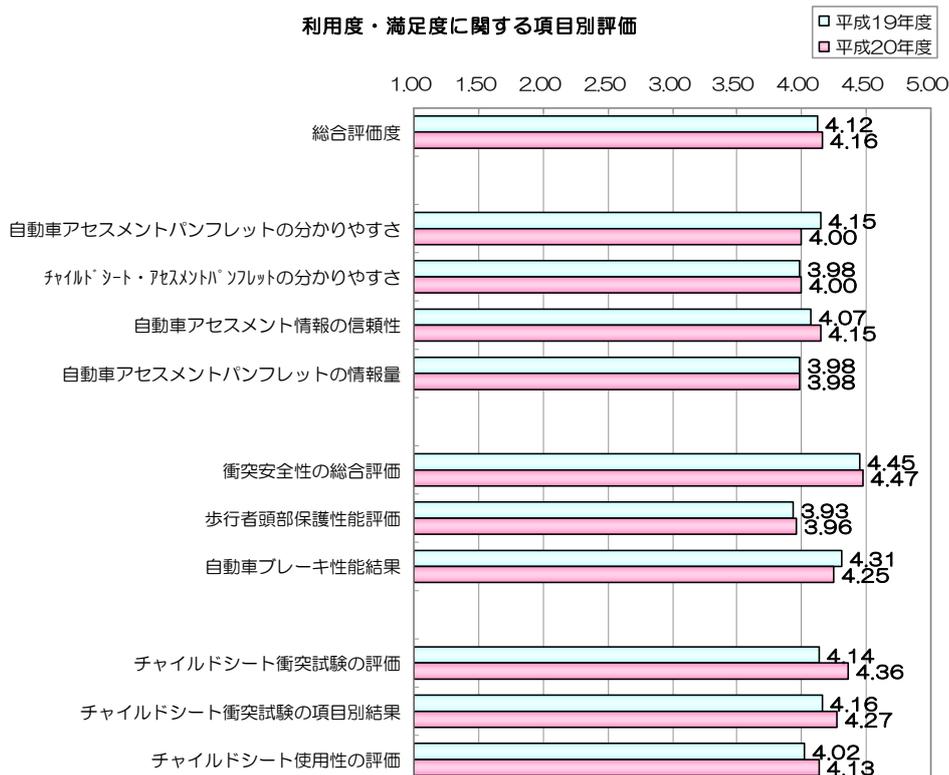
○ ユーザーの評価度

目標値の4.0を上回る、4.16の評価を得た。

調査概要

- ・調査期間：平成20年9月5日～20年9月30日
- ・調査対象：自動車ユーザー団体機関誌アンケート回答者及び^{*}スクリーニング調査（運転免許保有者）によるモニター回答者 ※アンケートを行うにあたって、指定された条件にあう対象者を選ぶ調査
- ・有効回答数：498件

利用度・満足度に関する項目別評価



2) 中期目標達成に向けた次年度以降の見通し

引き続き中期計画上の目標値を達成するよう業務を遂行することとしている。また、平成20年度の項目別評価結果も踏まえ、業務の改善を図ることとしている。

◎その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

(中期目標)

- ② 質の高いアセスメント試験を行うとともに、アセスメントをより効果的なものとするため、実事故との相関を分析し、車両の安全性能に関する試験内容や評価方法の改善を図る。

(中期計画)

- ④ 予防安全性能、衝突時の乗員対策及び歩行者の保護性能を改善するため、事故実態を踏まえ、試験方法、評価方法の策定や見直しを行います。
また、後遺障害者数が多い実態を踏まえ、後遺障害対策にも取り組みます。

(年度計画)

- ④乗員の側面衝突時の頭部傷害による死亡重傷率を低減させるため方策を導入します。
- ⑤調査研究の実施
 - ア 頭部傷害保護性能試験の試験方法について調査研究を行います。
 - イ 歩行者脚部保護性能試験導入のための基礎調査を実施します。
 - ウ 交通事故を未然に防止するため予防安全装置の効果評価のための基礎調査を行います。
 - エ 後席乗員保護性能評価試験導入のための評価法の調査研究を行います。
 - オ 総合評価以降に実施した試験対象車種及び総合評価以前を含めた対象外車種の事故データを調査・収集するとともに、当該車種の側面衝突試験結果との相関関係を解析します。

◎ 年度計画における目標設定の考え方

今後導入すべき各種試験に関する、調査研究を進める。

◎ 当該年度における取組み及び中期目標達成に向けた次年度以降の見通し

1) 平成20年度における取組み

○乗員の側面衝突時の頭部傷害による死亡重傷率を低減させるための方策

電柱等車外の構造物への衝突を含む側面衝突時の頭部保護性能改善方策として有効なサイドカーテンエアバッグについて、平成20年度アセスメント試験より一定の要件を満足するかどうかについて、評価・公表を開始した。

また、「自動車アセスメントグランプリ」の選定にあたり、要件を満たした当該エアバッグの有無を条件に加え、普及促進が図られるよう方策を講じた。

【側面衝突時のサイドエアバッグの展開状況】



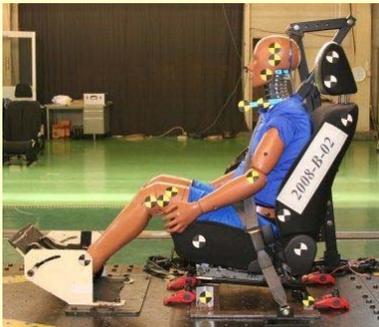
ア. 頸部傷害保護性能試験の試験方法について調査研究

平成18年度及び19年度の研究を踏まえ、21年度からの頸部障害保護性能試験導入にむけて傷害指標の選定、試験法及び評価法を検討した。

また、評価法等の検討にあたり、市場に流通しているタイプの異なるシート（ノーマルシート、パッシブシート、リアクティブシート）について、スレッド試験を実施し試験波形の妥当性について確認した。

なお、当該試験については、当初の予定通り21年度よりアセスメント評価試験として開始する。

【試験前セットアップ】



【追突再現試験連続写真】

後方から衝撃を加え追突事故を再現

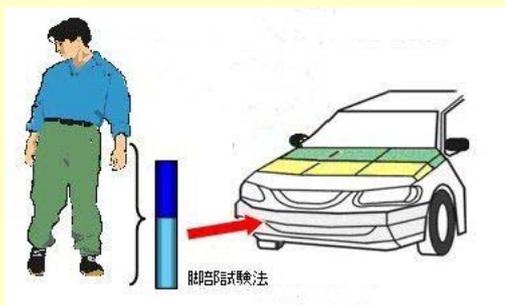


イ. 歩行者脚部保護性能試験導入のための基礎調査

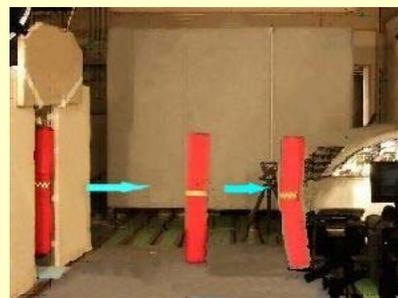
自動車の前面部（バンパー・スポイラー・ボンネット先端部等）に歩行者の脚部が衝突した際の「歩行者脚部保護性能試験」の22年度導入に向け、新たに用意されたFlexインパクト導入のために必要な調査研究を行い、評価のレーティングを行うための基礎データの収集を行った。

なお、20年度の調査結果に基づく知見をもとに、21年度において引き続き試験法等の検討を行うこととしている。

【歩行者脚部保護性能試験イメージ】



【インパクトを使用した試験】



(写真[合成]は、インパクトをバンパに向けて打ち出しているところ。)

ウ. 交通事故を未然に防止するため予防安全装置の効果評価のための基礎調査

予防安全技術検討WGを開催し、20年度のパンフレットに掲載すべき主要な安全装備について検討を実施。主要な予防安全装備の装備状況について、調査を実施し自動車アセスメント冊子及びホームページにおいて公表するとともに、アセスメント結果発表会等の機会を捉え普及状況について紹介した。

エ. 後席乗員保護性能評価試験導入のための評価法の調査研究

後席乗員保護性能試験は、従来の助手席ダミー（AM50：成人男性）の代わりに後席（助手席）へ新たなダミー（AF05：成人女性）を搭載した状態で行う試験について、調査研究を踏まえたトライアル試験による検証を行い、試験法、評価法を策定した。

なお、併せて後席使用性評価及びシートベルトリマインダー評価についても、試験法及び評価法について策定をすすめた。

また、これら試験については、当初の予定通り21年度よりアセスメント評価試験として開始することとしている。

【調査研究に伴うトライアル試験】

【試験前セットアップ】



【衝突時の後席の映像】



オ. 総合評価以降に実施した試験対象車種及び総合評価以前を含めた対象外車種の事故データを調査・収集するとともに、当該車種の側面衝突試験結果との相関関係を解析

総合評価以降に実施した試験対象車種及び総合評価以前を含めた対象外車種の事故データを収集し、それらの車種について総合評価が開始された以降を対策群、以前を未対策群として、試験実施年と死亡重傷率との相関を分析した。この結果、未対策群と比較して対策群は、死亡重傷率が低くなるという相関が確認された。

また、自動車アセスメントにおける側面衝突試験の計測項目と死亡重傷の傷害の相関を分析したところ、恥骨荷重の傷害値が高いほど腰腹部の死亡重傷傷害が発生しやすいという相関関係がみられた。

2) 中期目標達成に向けた次年度以降の見通し

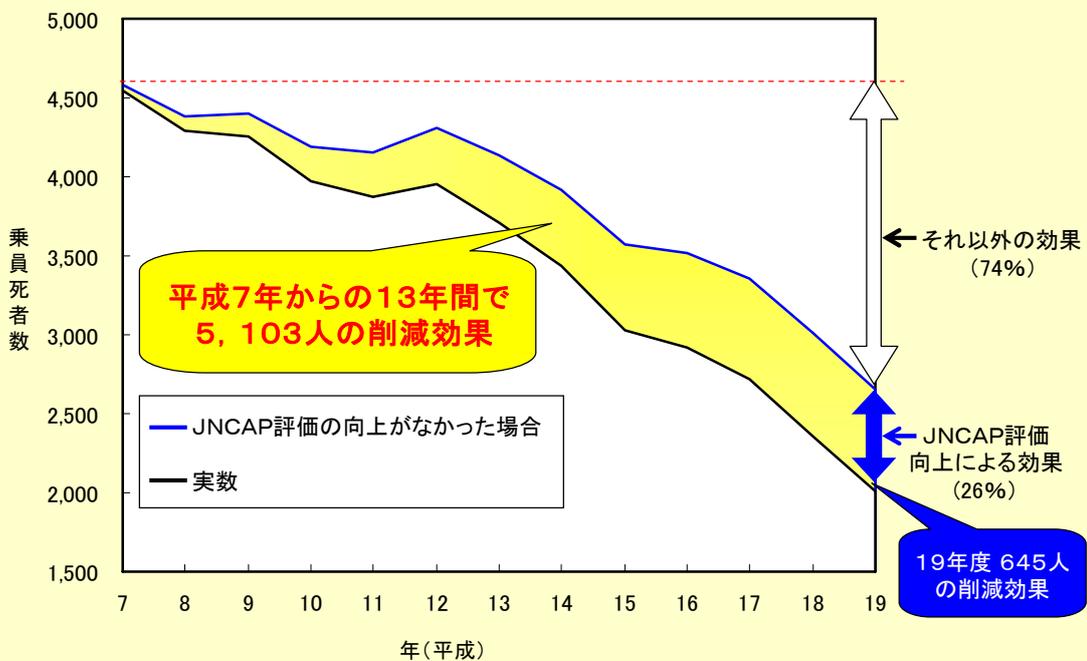
引き続きアセスメントをより効果的なものとするため、車両等の安全性能に関する試験内容や評価方法の改善を図ることとしている。

◎ その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

○平成17年3月に公表した「自動車アセスメントにおける安全性の評価結果と事故データの相関分析及び被害低減効果についての試算」を基に平成6年から平成19年までにおける自動車アセスメント前面衝突試験導入効果について新たに試算を行った。

その結果、平成7年からの13年間で、死者数5,103人、重傷者数132,241人の削減の効果が試算された。

自動車アセスメントによる死者数低減効果



(中期目標)

③ 海外のアセスメント関係機関との情報交換等により試験開発能力の向上を図る。

(中期計画)

⑤ 専門家との討論及び情報交換を実施するなど、各国のアセスメント機関、専門家等との情報交換を継続的に実施することにより、試験方法の見直し、情報提供方法の改善等に役立てます。

(年度計画)

⑥ 海外の関係機関との情報交換等

ア 海外のアセスメント関係機関との情報交換を積極的に行うとともに、その結果を踏まえて今後の我が国の試験方法、情報提供方法等の改善に役立てます。

イ 世界NCAP会議の結果を踏まえ、アジア諸外国との連携を図ります。

◎ 年度計画における目標設定の考え方

各国アセスメント関連機関、専門家等と継続的に討論及び情報交換を行い、試験法、評価法等の開発に資するために、各種国際会議に参加することとした。

◎ 当該年度における取組み及び中期目標達成に向けた次年度以降の見通し

1) 平成20年度における取組み

ア. 海外のアセスメント関係機関との情報交換

・ 平成20年6月、ANCAP（豪州・ニュージーランド）のマッキントッシュ氏の訪日の機会をとらえ「日・ANCAP会議」を開催し、それぞれの自動車アセスメントの近況について紹介するとともに、評価試験にかかる技術や頸部傷害、チャイルドシートアセスメント、後席乗員保護評価等について意見交換を行った。

・ 平成20年10月27日、来日したIIHS（米国道路安全保険協会）のAdorian Laund氏と「日・IIHS会議」を開催し、JNCAPの現在、将来の活動計画及びアセスメントグランプリ表彰について紹介した。また、予防安全装置の装備判定、被害軽減ブレーキの効果、運営資金等について意見交換を行った。

なお、IIHSから米国の状況が紹介されたほか、オートバイの事故の増加に伴いABS装着車と未装着車の事故発生率について調査を進めている旨説明があった。

【日・ANCAP会議】



【日・IIHS会議】



- ・平成21年3月30日～2日韓国において、ANCAPがKNCAP（韓国）で行うアセスメント試験の機会をとらえ、訪韓するEURONCAP及びJNCAPを加えた4アセスメント実施機関により、技術的理解度を深め、組織間のより綿密な連携を図ることを目的に「International NCAP Workshop」が開催された。会議においては、NCAP実施機関の試験内容の比較、情報交換のためのネットワーク構築、試験データの相互利用の可能性について意見交換等を行った他、海外アセスメント機関それぞれのアセスメント評価法等について、情報収集を行った。

【International NCAP Workshop】



イ. アジア諸外国との連携

- ・平成20年11月7日、中国天津において中国自動車技術研究センター(CATARC)と共同で「日・中NCAPセミナー」を開催した。セミナーでは、基調講演、日本の自動車事故実態と死傷者削減の取り組み、NASVAのNCAPへの取り組み状況とその効果について紹介し、中国NCAP機関との連携強化を図った。

また、セミナー共催に先立ち、11月6日に中国自動車技術研究センター(CATARC)の施設において、施設及びオフセット正面衝突試験を視察し、意見交換を行った。

【日・中NCAPセミナー】



2) 中期目標達成に向けた次年度以降の見通し

引き続き海外アセスメント関係機関と情報交換を行い試験開発能力の向上を図ることとしている。

◎ その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

○ 中国中央テレビ局への取材対応

日 時 平成20年6月10日(火) 14:00~16:00

場 所 独立行政法人 自動車事故対策機構本部

取 材 者 中国中央テレビ

取材内容 日本における自動車アセスメント事業について
(日本の自動車アセスメント事業について、特集番組の中で紹介)

対 応 者 企画部長

参 考 中国中央テレビは、1958年に創立された従業員数が約1万人、17チャンネルにて中国全土をカバーし、10億人以上の視聴者を持つ中国最大規模のテレビ局。

【取材状況】



【中国で放映された映像】



○ NASVA・韓国交通安全公団会議

平成21年4月3日「International NCAP Workshop」で訪韓した機会をとらえ、韓国内の事故防止、被害者援護、自動車検査、自動車登録を中心に鉄道・航空の安全を所管している「韓国交通安全公団」を訪問し、自動車アセスメントを含めたNASVAが行う業務について紹介するとともに韓国側の情報を収集した。また、今後の連絡を密にするため、お互いのコンタクトパーソンを決め連携の強化を図った。

【NASVA・韓国交通安全公団会議】



(中期目標)

④ 外部評価を行い、その内容を国民にわかりやすい形で情報提供する。

(中期計画)

⑥ 業務改善状況等についてタスクフォースにより外部評価を行い、その結果をホームページ等で公表します。

(年度計画)

⑦ 業務改善状況等についてタスクフォースにより外部評価を行い、その結果をホームページ等で公表します。

2) 中期目標達成に向けた次年度以降の見通し

引き続き外部評価を行い、その結果をホームページ等で公表するとともに、評価結果に基づき改善を図ることとする。

タスクフォースによる外部評価結果

(1) 安全性の向上

自動車の衝突安全性能については、過去に自動車アセスメントを実施した車種の後継車種の評価指標の平均値が、乗員保護性能及び歩行者頭部保護性能ともに旧車種の評価指標の平均値以上となっており安全性能の向上が図られている。自動車アセスメント事業により、平成7年度以降累計で死者数約5,100名、重傷者数約132,000名の削減効果が推計されており、大きな成果を上げている。引き続き自動車メーカーに対し、より安全性の高い車両の開発を促すため、アセスメント事業のさらなる充実を図るとともに、ユーザーの安全性への関心を高める広報を行う等、安全性の向上に取組む必要がある。

(2) 交通事故実態を踏まえた試験方法等の検討及び見直し

①一定の要件を満足するカーテンエアバックが装備された車種をより安全性の高い車種とし、20年度より評価を開始している。併せてアセスメントグランプリ車選定要件の一つとし、普及促進が図られている。②後突頭部傷害保護性能試験法の調査研究をすすめ、当初の予定どおり21年度から評価を開始している。③22年度導入に向けた「歩行者脚部保護性能試験」について、新たに用意された Flex インパクトターを用いた研究を行っている。④交通事故を未然に防止するため、公表すべき主要な予防安全装置について調査を行い、パンフレット冊子及びホームページで公表するとともにアセスメント結果発表会等の機会を捉え普及状況を紹介している。⑤後席シートベルト着用義務化についての道路交通法改正の動きと連動し、後席乗員保護性能試験導入のため調査研究をすすめ、当初の予定どおり21年度から評価を開始している。⑥事故データを調査・収集し側面衝突試験結果との相関を分析する等、試験方法の検討及び見直しについて、着実な進展が認められる。

また、中国天津において、「日・中 NCAP セミナー」を開催し、中国 NCAP 機関との連携強化を図ったほか、豪州や米国のアセスメント機関との情報交換の実施並びに諸外国の自動車アセスメント機関が参加する「international NCAP Workshop」に参加し、日・豪・欧・韓で試験方法に関する意見交換等を行う等、アジアを含む海外の自動車アセスメント機関等と連携し、積極的に情報収集等が行われている。

今後とも、事故実態や交通事故を未然に防止する視点も踏まえ、自動車等の安全性向上のための試験方法等の改善を進めていくことが必要である。

(3) 情報提供方法についての改善と広報の拡大

8回のプレスリリースを行い、アセスメント試験公開や自動車アセスメントグランプリ表彰制度を活用し、メディアに取り上げられるよう努力した結果、テレビでの報道は、のべ10回、大手新聞社を含めた新聞報道53回、雑誌等への掲載は26回、その他インターネット上も含め非常に多くのメディアを通じて自動車アセスメントに関する広報がなされている。

また JNCAP ロゴマークを刷新し、メディア等へ活用を促す等自動車アセスメントの認知度の向上のための努力が図られている。

このほか、主要な安全装置の装備状況をわかりやすく記載するなどユーザーにわかりやすい、パンフレット、ホームページの改善が行われたほか、販売店等へのパンフレットの配布先拡大についても努力が認められる。

引き続きパンフレットの配布先の一層の拡充やホームページの充実等について取組みが必要である。

【業績評価のための特別なタスクフォース】における審議の様子 (H21.6.11)



◎ その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

(8) 自動車事故対策に関する広報活動

(中期目標)

機構の全国組織を活用し、関係機関との連携の下、自動車損害賠償保障制度と機構業務について効果的に広報活動を行う。

(中期計画)

事故防止、被害者援護及び自動車損害賠償保障制度に関し組織一体となった広報活動を実施します。

交通安全フェア等における、国等と協力した周知宣伝活動やインターネット、マスメディア等を活用した広範な広報活動を積極的に実施します。

(年度計画)

後席シートベルト着用推進・飲酒運転の根絶等の事故防止対策事業や被害者への各種情報提供等の被害者援護対策事業、さらには自動車損害賠償保障制度の周知など機構業務の認知度向上のため、交通安全フェア等各種イベントへの参画、国・地方自治体等の関係機関と連携した広報活動、また、ポスター、パンフレット、インターネット、マスメディア等を活用した国民・関係機関（者）への周知宣伝活動により、積極的な広報活動を推進します。

◎ 年度計画における目標設定の考え方

- 事故防止、被害者援護及び自動車損害賠償保障制度に関し、組織一体となった広報活動を実施します。
- 交通安全フェア等における、国等と協力した周知宣伝活動やインターネット、マスメディア等を活用した広範な広報活動を積極的に実施することとした。

◎ 当該年度における取組み及び中期目標達成に向けた次年度以降の見通し

1) 平成20年度における取組み

- ・ 各種イベントへ下表のとおり出展し、参加体験型としてNASVA業務の一部である運転適性診断を実施した。

また、会場でのビデオ放映、パネルの展示、ポスターの掲示、リーフレットの配布等により機構業務及び自動車損害賠償保障制度等の周知宣伝活動を行った。特に安全健康快適フェアに初めてナスバネットを出展し、関心を集めた。

イベント名	主催者	開催日	機構ブース来場者
交通安全アクション	(社)日本自動車会議所	4月12日,13日	1,112人
交通安全キャンペーン		9月25日	87人
交通安全フェア	内閣府,交通安全フェア推進協議会	9月13日,14日	655人
安全健康快適フェア	中央労働災害防止協会	5月22日~24日	477人

【ナスバネットを体験受診されている来場者】



【展示の様子】



- 後席シートベルト着用推進・飲酒運転の根絶については上記イベント等で周知を図るとともに、全国交通安全運動実施計画の項目として定め指導講習等で周知を図った。

【展示の様子】



- 交通事故被害者ホットライン等について、政府広報を通じ、広く周知を行った。

【交通事故被害者ホットライン 政府広報 6月20日】



2) 中期目標達成に向けた次年度以降の見通し

引き続き、後席シートベルト着用推進・飲酒運転の根絶等の事故防止対策事業や被害者への各種情報提供等の被害者援護対策事業、さらには自動車損害賠償保障制度の周知などNASVA業務の認知度向上のため、交通安全フェア等各種イベントへの参画、国・地方自治体等の関係機関と連携した広報活動、また、ポスター、パンフレット、インターネット、マスメディア等を活用した国民・関係機関（者）への周知宣伝活動により、積極的な広報活動を推進する。

◎ その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報